



【本日のお話内容】

ラダックとザンスカール：

- ・インドの北方で、チベット高原の西端。標高3000m以上の高地で、乾燥地帯。
- ・中国によるチベット支配と文化大革命の破壊を免れた、現代に残るチベット文化圏。
- ・インド・パキスタン分離独立時のカシミール帰属問題が現在も強い影響。

お話しは、

- ① 探検時代(1世紀ほど前)の状況と地図、現在の状況
- ② ラダック: その各地域別に、1世紀前と20数年前・今日の比較
- ③ ザンスカールへの道
- ④ ザンスカール: その各地域別に、ゴンパを中心に、20数年前と今日の比較

一連のスライド中では、現地の写真紹介の部分もありますので、
時折はお話しの筋が途切れます。

【発表者の立場】

- ・発表者(長岡)は、チベット仏教(特にその圖像などの研究に係わる者)ではなく、
- ・趣味の写真と地図、山歩きなどの資料の蓄積によって、ここ1世紀でのこの地域の変遷を述べるものです。
- ・従って、この地域の詳しい歴史や、チベット仏教とその圖像についての詳しい説明は出来ません。

【ラダックのレーからデリー間での東側機窓展望-長岡, 2006】

ラダックとザンスカール／その位置

【地図: Collins】

位置など

- ・インドの北方で、チベット高原の西端
標高3000m以上の高地で、乾燥地帯。
- ・中国によるチベット支配と文化大革命の破壊を免れ、現代に残るチベット文化圏。
- ・インド・パキスタン分離独立時の、カシミール帰属問題が現在も強い影響。

【Wikipedia より】

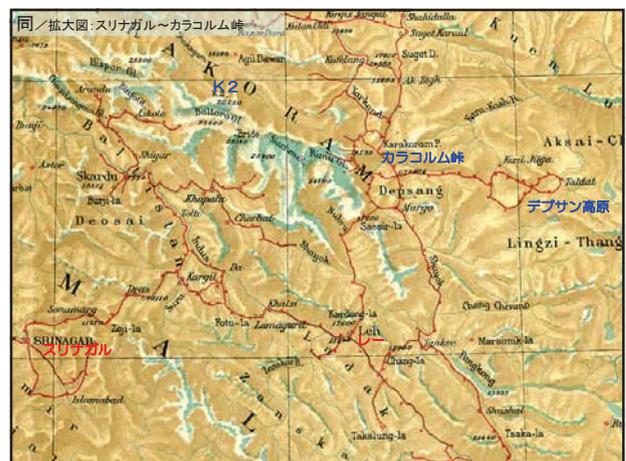
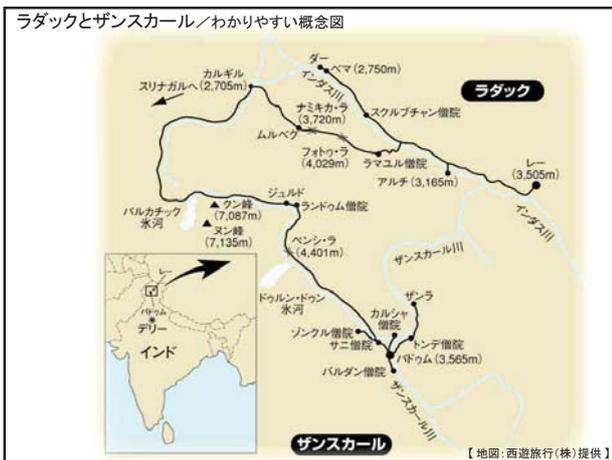
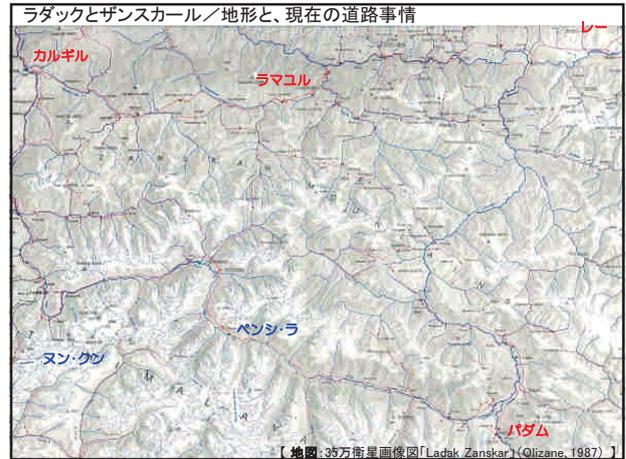
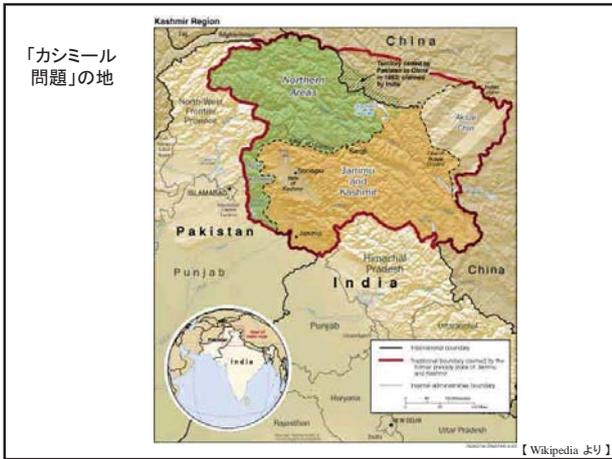
その位置：カラコルムの南…

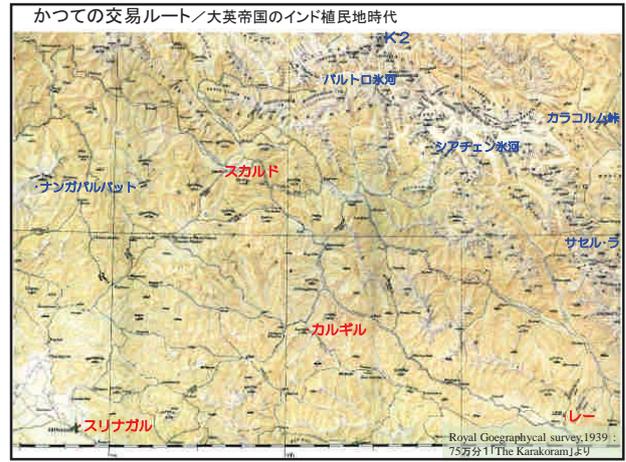
ヒマラヤ脈の山々

【地図: アルハインツアーサービス(株)提供】

INDIAN SUBCONTINENT

【地図: Collins】

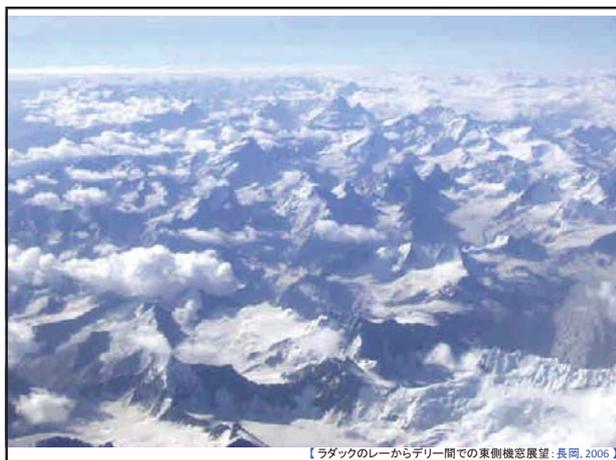




ラダックとザンスカール：以下で、写真によるご紹介を

- 1世紀前のラダックと現代／探検隊や旅行家の通過経路であったため1世紀前からの資料がある。
- ザンスカールは近年まで、西欧の探検家から見て全くの隘路であったために、古い資料はない。

【バミールを原流とするオクサス河のKila Panjaにて、東方を望む：T.E.Goldon, 1876】





【長岡, 2011】



【長岡, 2011】

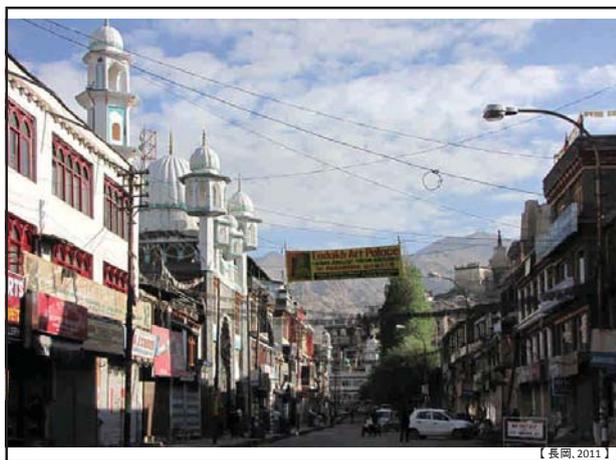


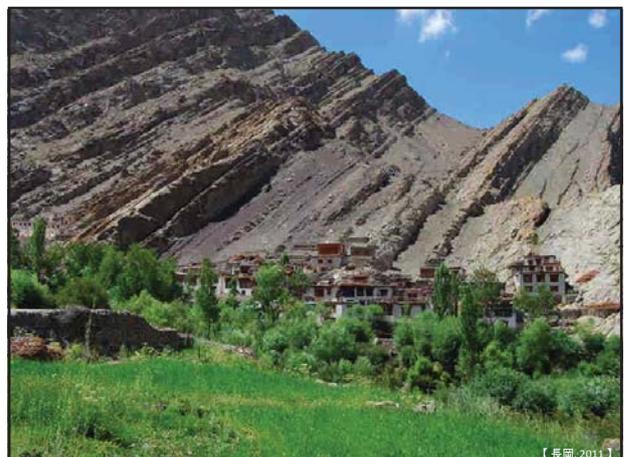
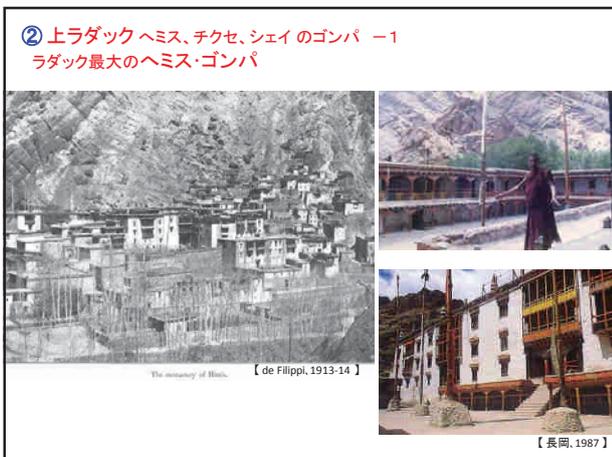
【ラダックの主要、レーの空港・長岡, 2011】

利用した 探検時代の文献

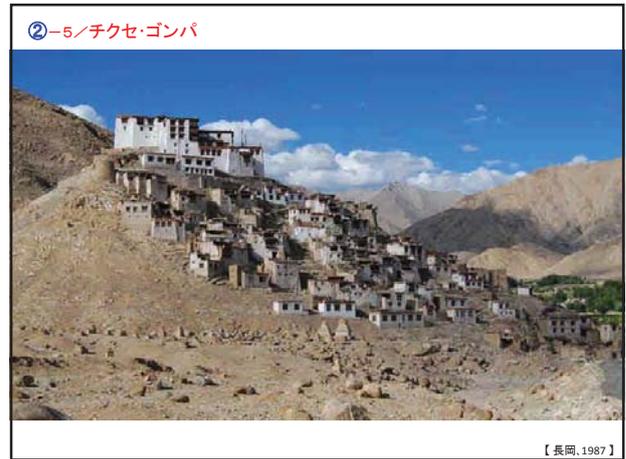
FMoorcraft "Travels in the Himalayan Province of Hindustan and Panjab in Ladak and Kashmirie" (2 vols, London, 1841)
 G.T.Vigne "Travels in Kashmir Ladakh Iskardo" (2 vols, London, 1842)
 T.Thomson "Western Himalaya and Tibet" (London, 1852)
 F.Youngusband "The Heart of a Continent" (London, 18)
 R.Shaw "Visit to High Tartary, Yarkand and Kashghar" (London, 1871)
 W.Moorcraft "Travels in Central Asia by Meer Izzut-Oollah in the year 1812-13" (Calcutta, 1872)
 G.Henderson and A.O.Hume "Lahore to Yarkand" (London, 1873)
 F.Drew "Jammu and Kashmir Territories" (London, 1875)
 T.E.Goldon "The Roof of the World" (London, 1876)
 The Earl of Dunmore "The Pamir" (Londo, 1893)
 M.Conway "Climbing and Exploration in the Karakoram Himalaya" (Londo, 1894)
 S.Hedin "Histry of Exploration in the Kara-Korum Mountains" (Leipzig, 1922)
 F.de Filippi "Karakoram and Western Himalaya 1909" (London, 1912)
 F.de Filippi "Himalaya, Karakoram and Eastern Turkestan (1913-1914)" (London, 1932)

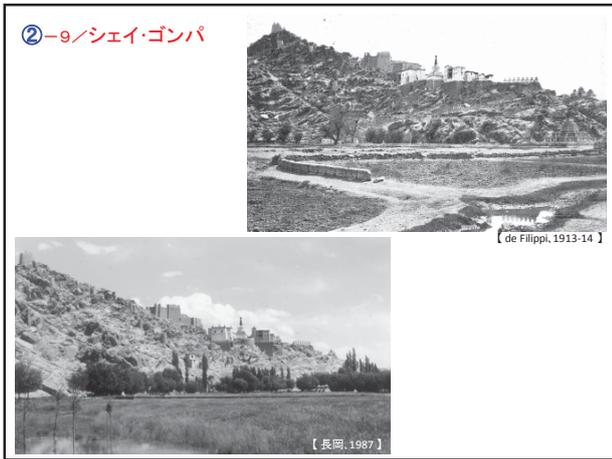








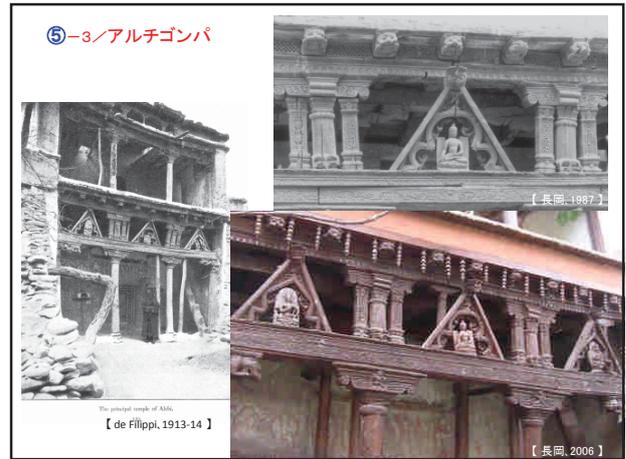


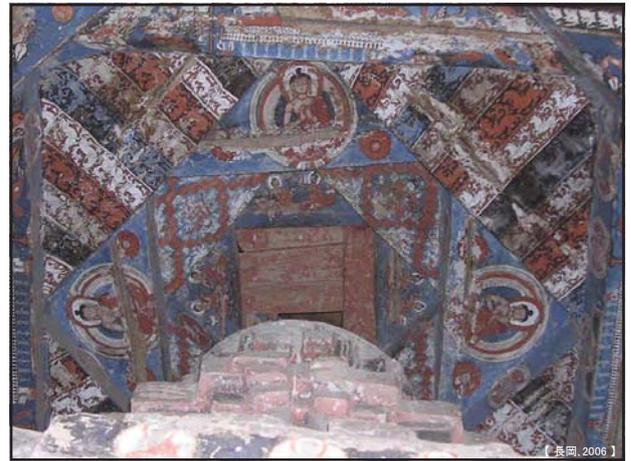


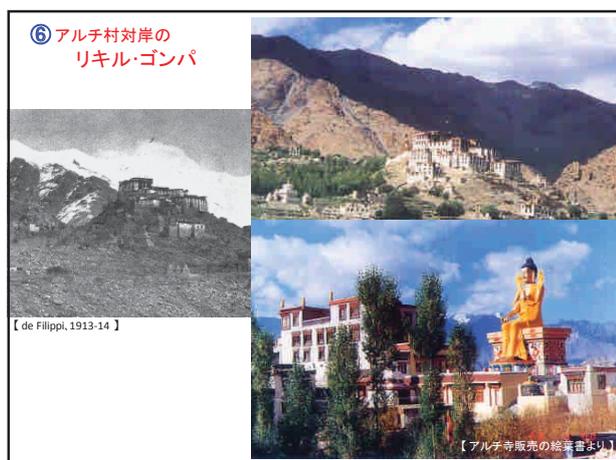




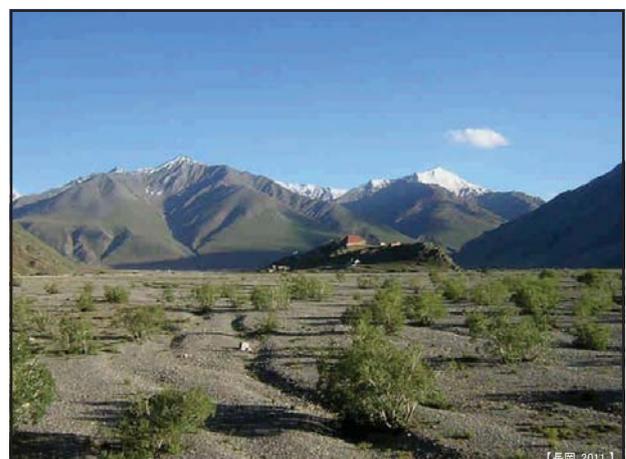


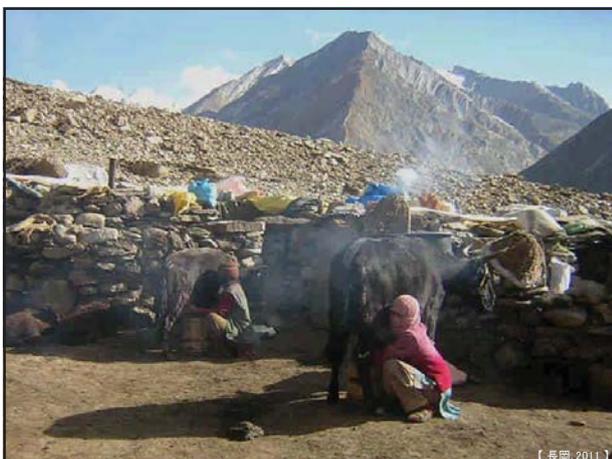
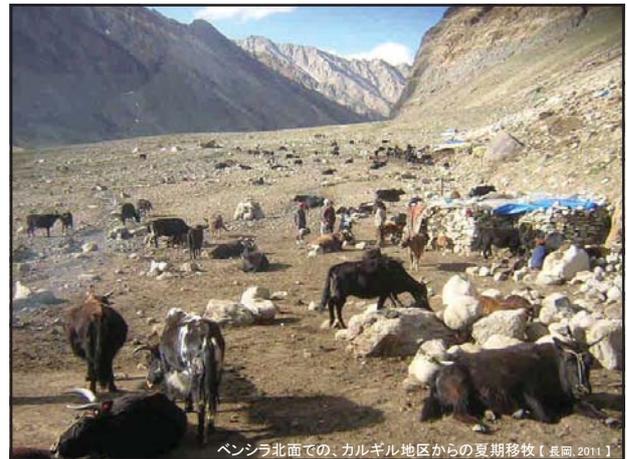
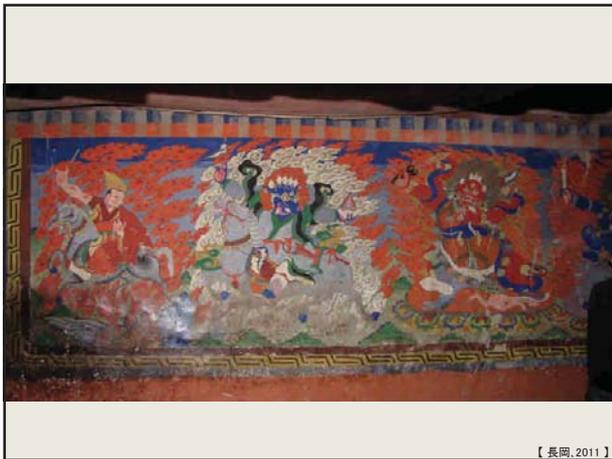


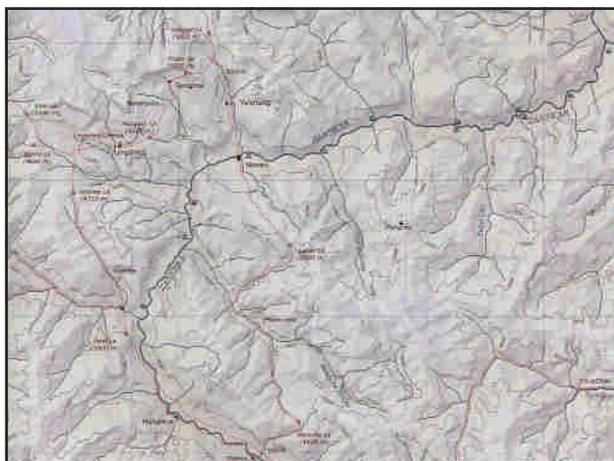
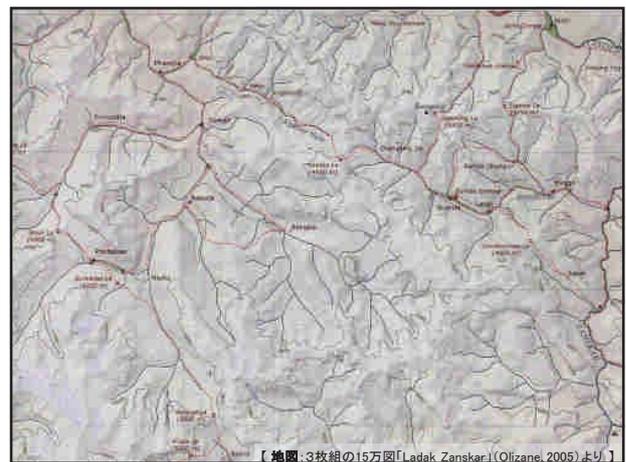




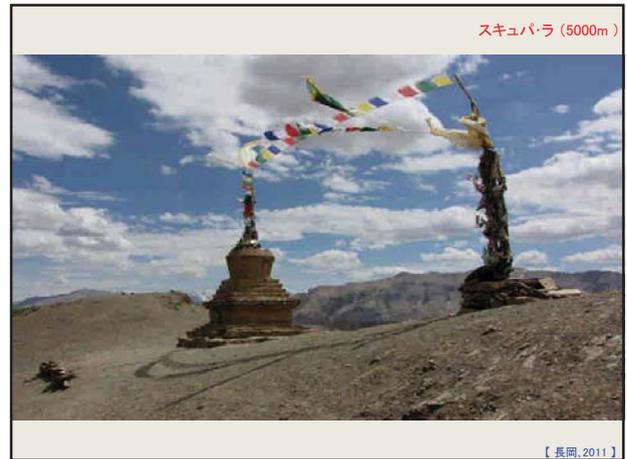


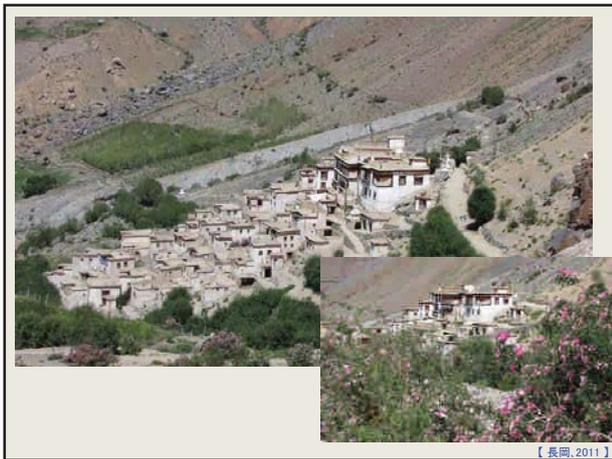


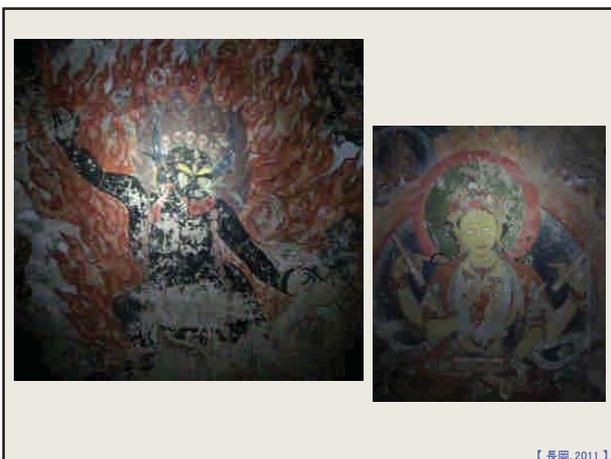
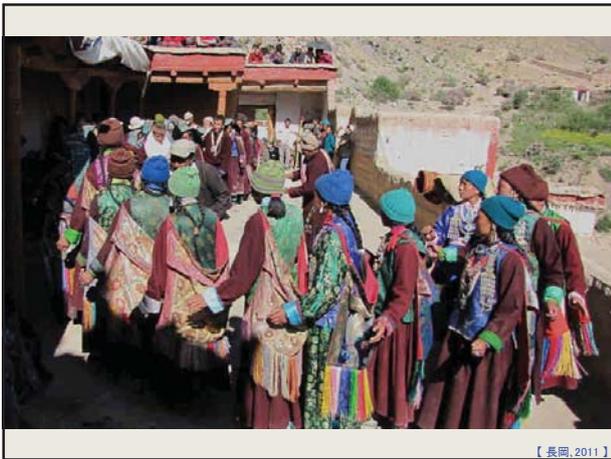


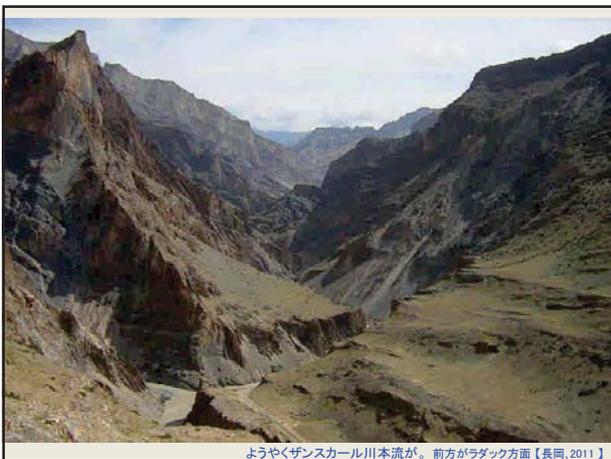






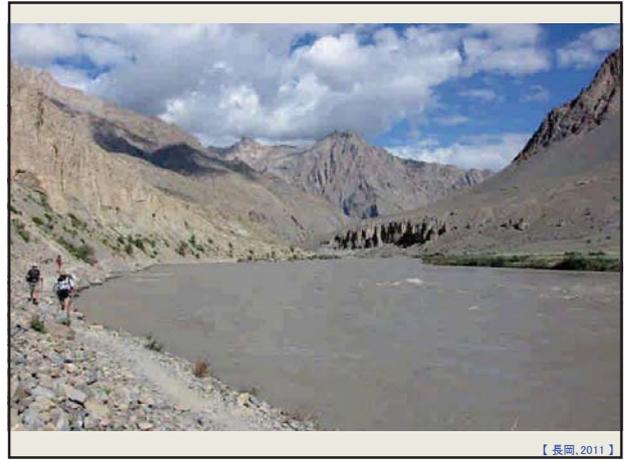








【長岡, 2011】



【長岡, 2011】



ザンスカール中心地の一角、ザンラに到達

【長岡, 2011】

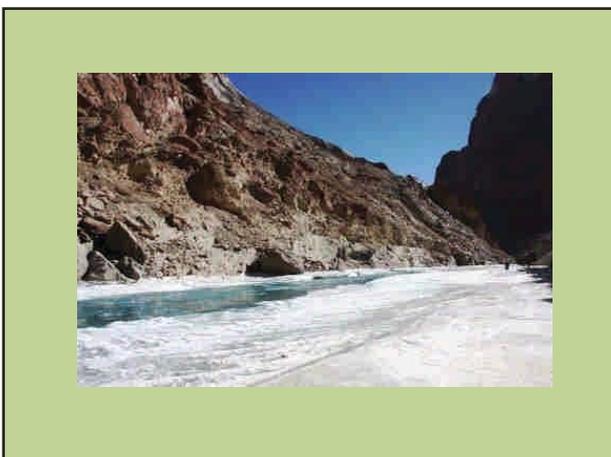
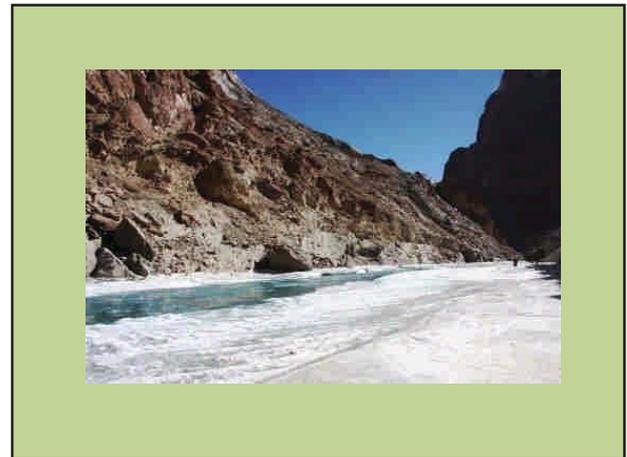


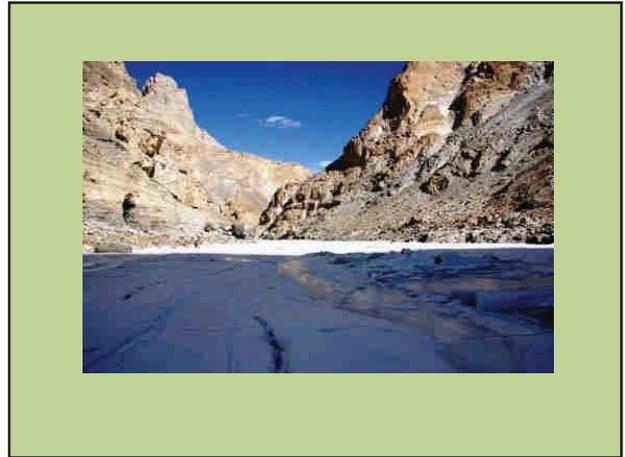
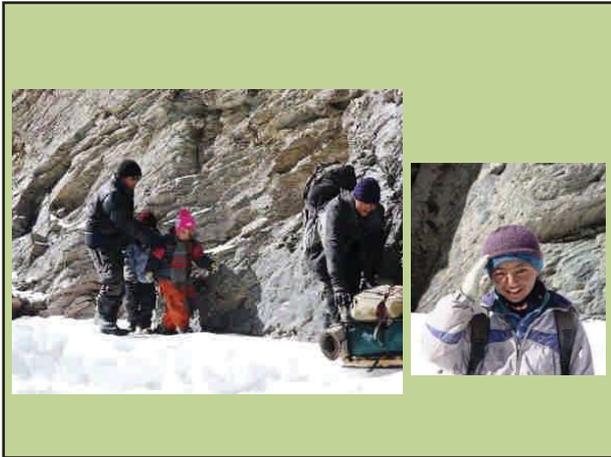
ザンスカールへの道 ③「氷の回廊:チャダル」、下流での車道建設 -1

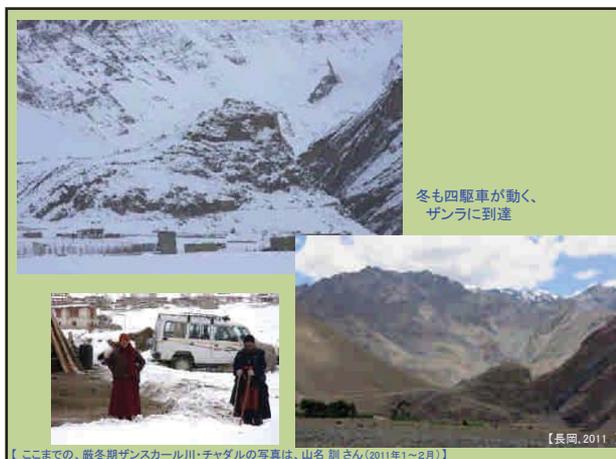
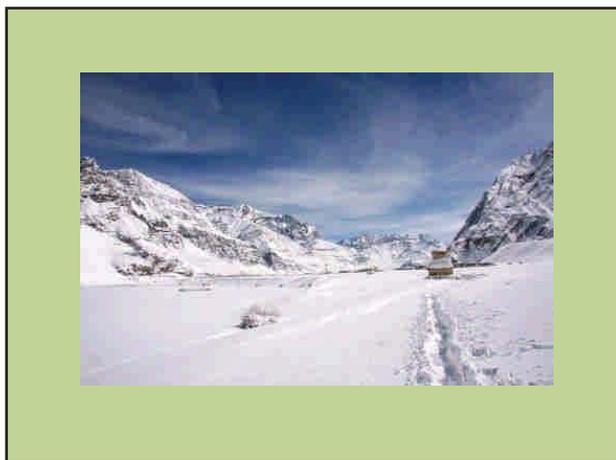
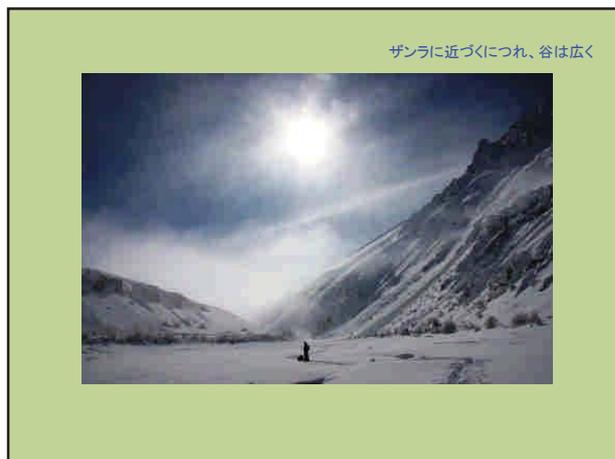
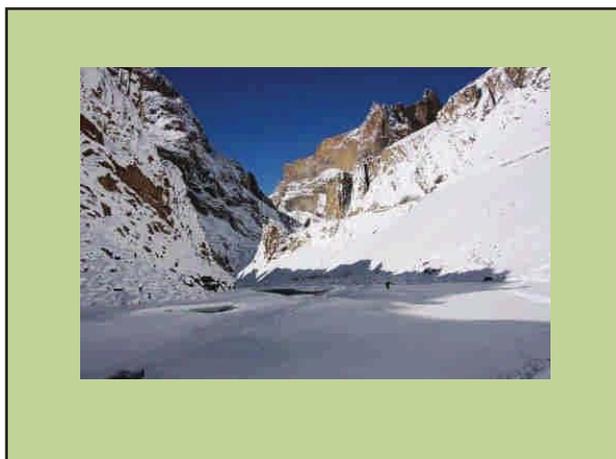
インダス川・ザンスカール川合流点。上流がザンスカール方向【長岡, 2006】

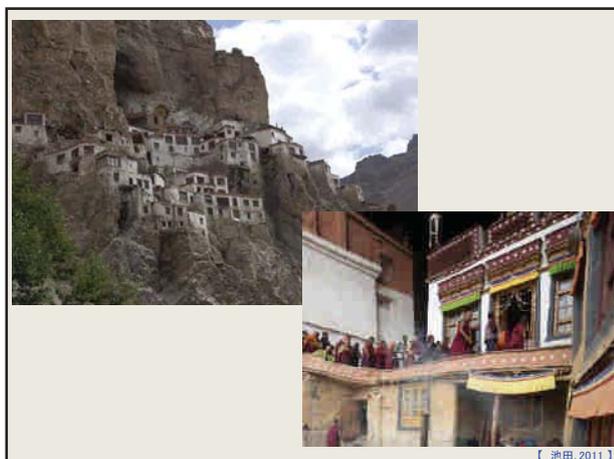
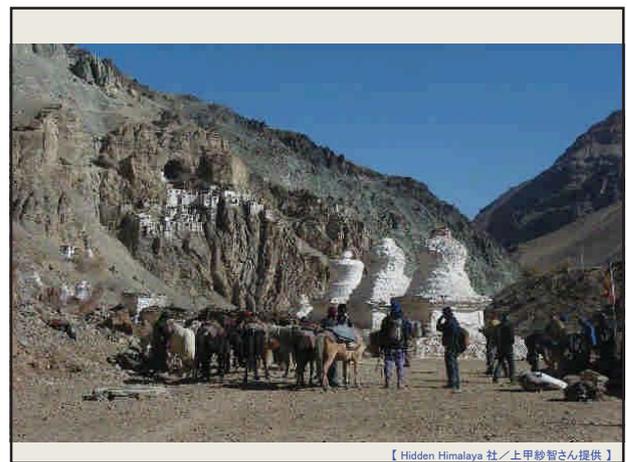
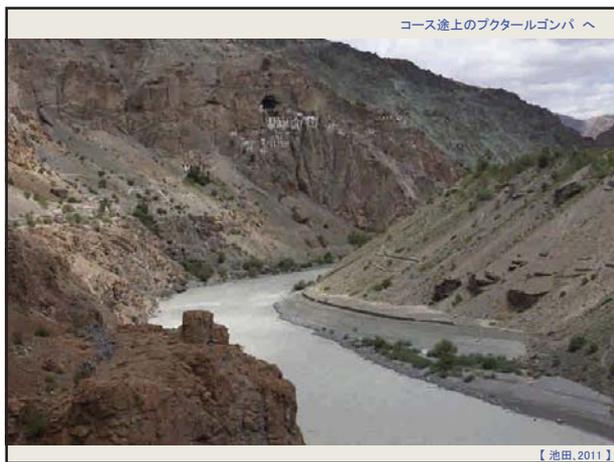




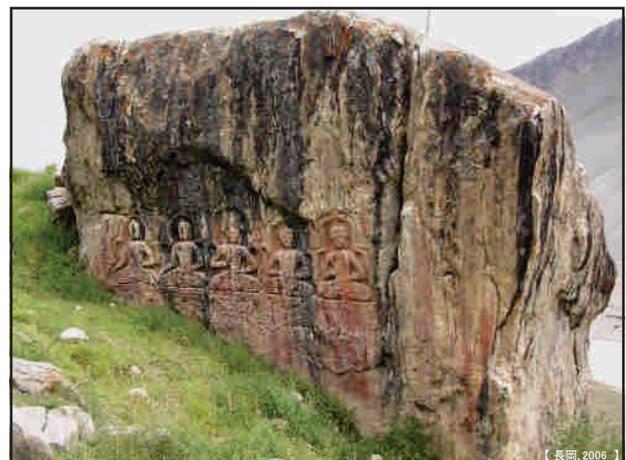
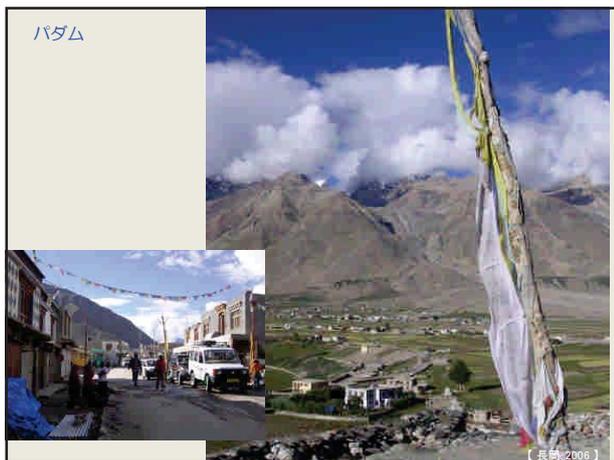
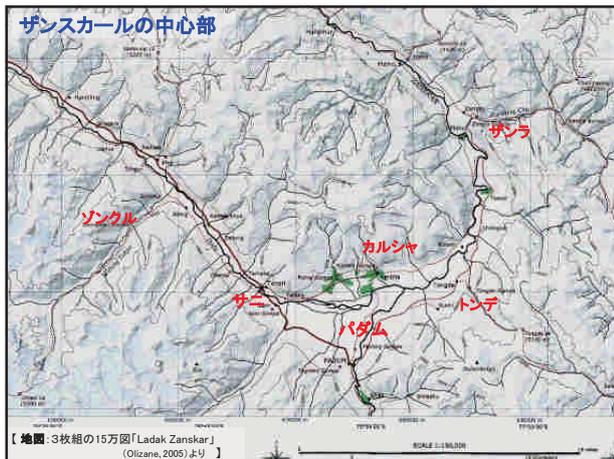


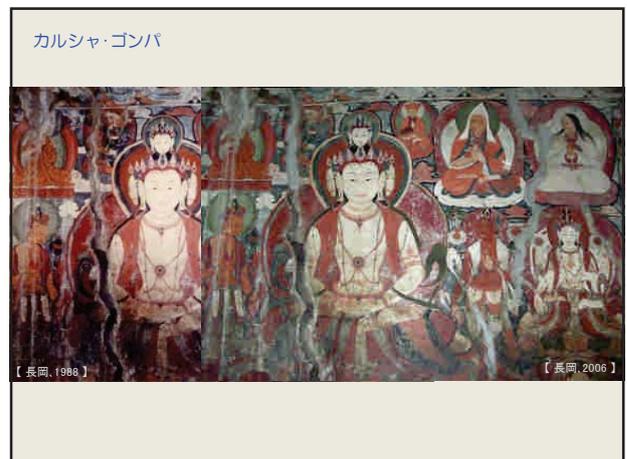
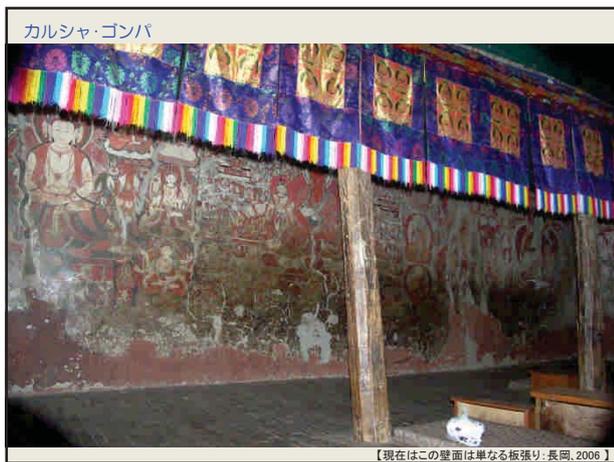
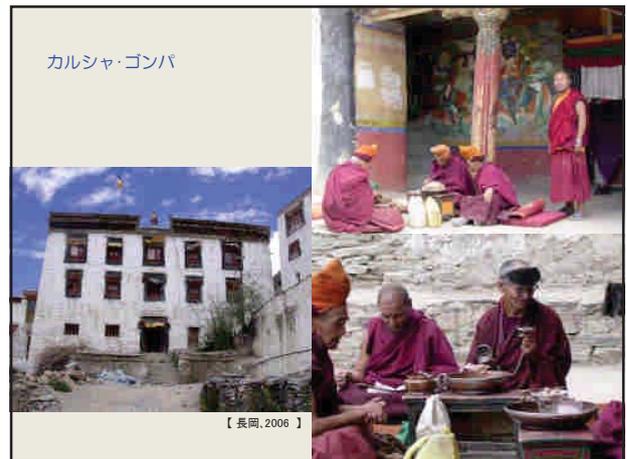
















【長岡, 2011】



【津久井, 2011】



【津久井, 2011】



カルシャ・ゴンバ

仏塔の天井には曼陀羅、側壁には人骨粉を混ぜた小仏像を格納

【長岡, 2006】



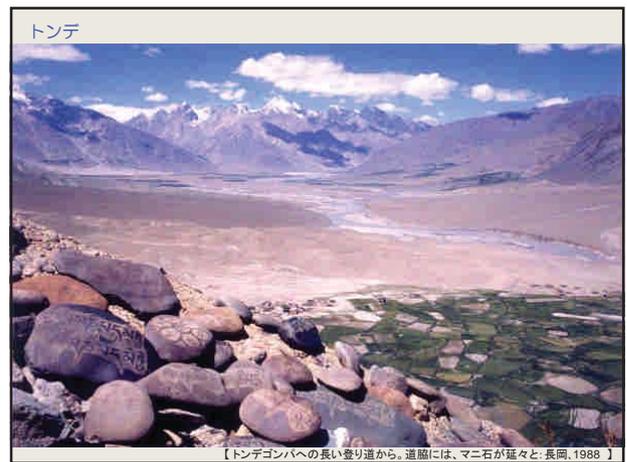
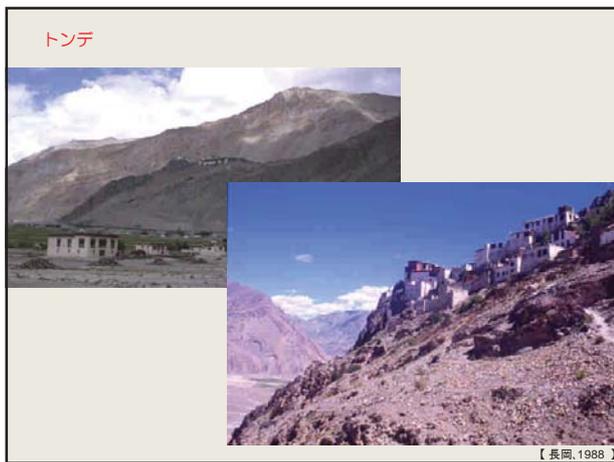
【地図：西遊旅行(株)提供】

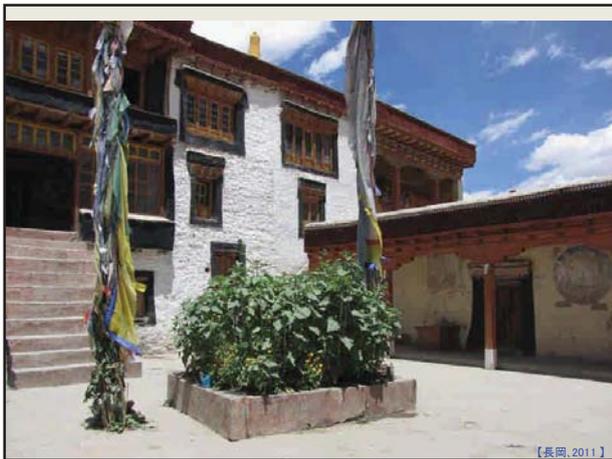
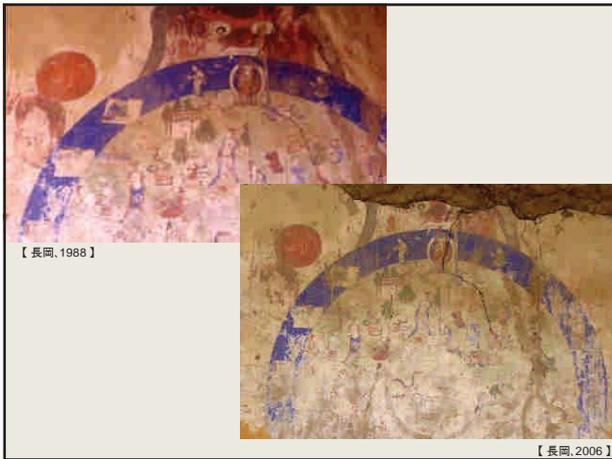


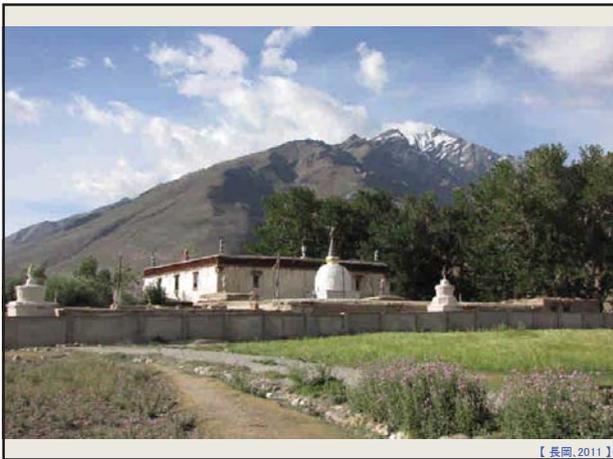
ザンラとトンデ・ゴンバ

最も標高が低く、緑豊かな村。健在な旧・ザンラ王家(2分家)のお一人。

【長岡, 2006】







【長岡, 2011】



【長岡, 2006】



【長岡, 2006】



【長岡, 2006】

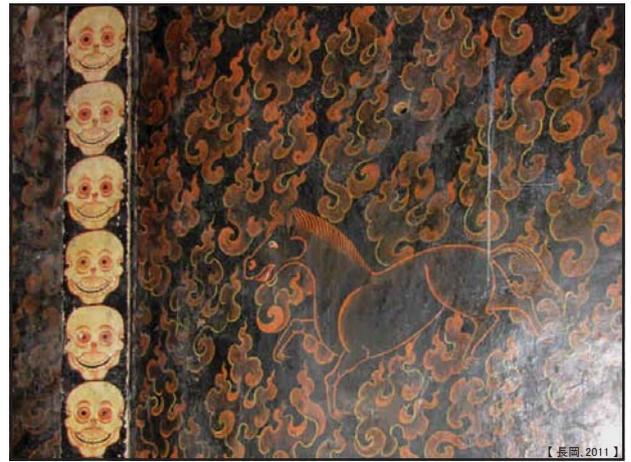
【長岡, 1988】

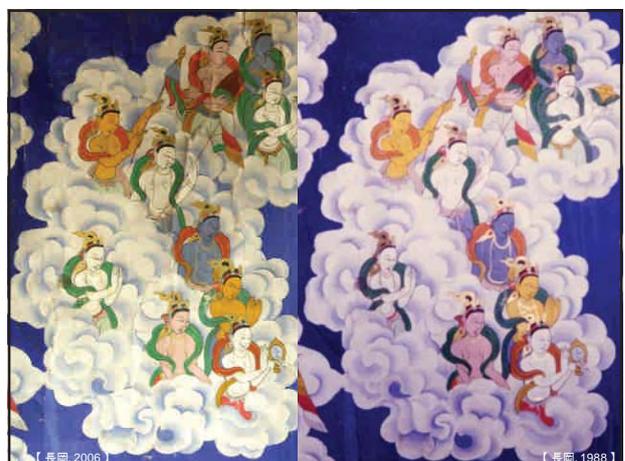
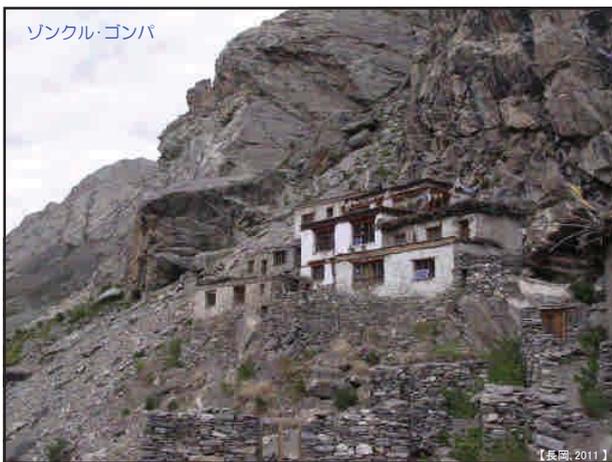


【長岡, 2011】



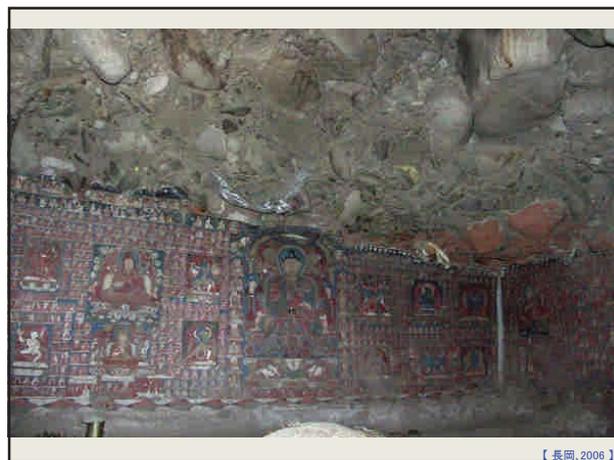
【長岡, 2006】



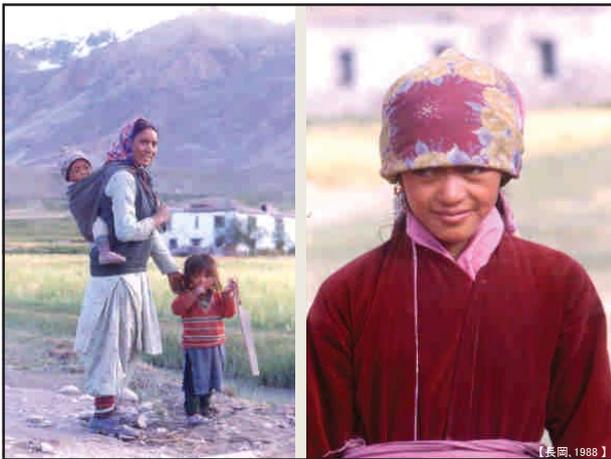


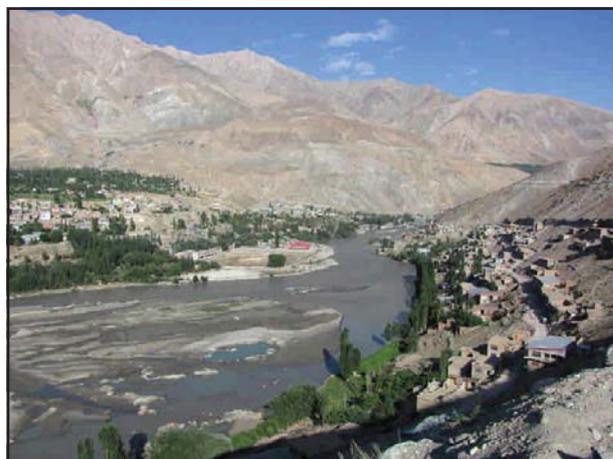
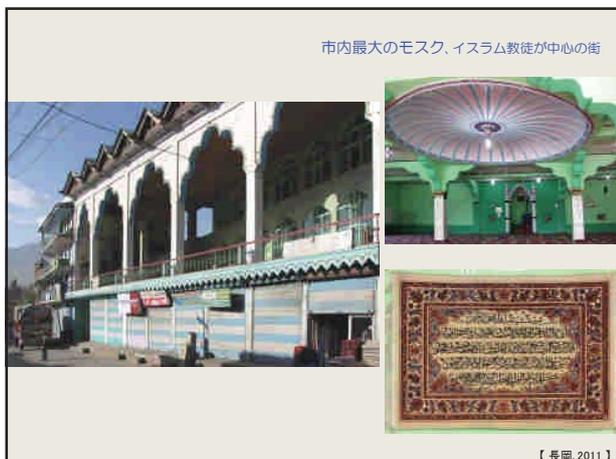
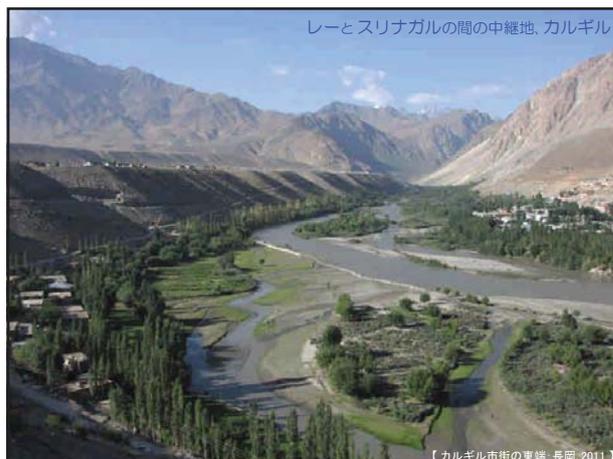














今回のご紹介に際して、次の各位・機関から、
ご教示と、写真・地図・資料の利用等の便宜を
頂きました。



(カルシャゴンパ：長岡、1988)

(五十音順：敬称略)

池田 一男
金子 民雄
香取 正樹 (西遊旅行(株)：当時)
津久井 真弥 (西遊旅行(株))
中村 健次郎
Hidden Himalaya 社 (在、ラダックのレー) / 上甲紗智
村田 兆子
望月 裕美子
山名 訓 (GNHトラベル&サービス)
西遊旅行(株)
アルパイン ツアー サービス(株)
(社)日本山岳会